

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第117版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵



介護・医療・障がい・保育の4部門11施設共通の理念がHPから発信されています。↑
(shirakawa.ed.jp) スマホからQRコードを読み取ると閲覧できます。 (QRコード)

豊かな積み重ね ～理念という土台の大切さ～

んでいく。そんなシンプルなプロセスを仕組みとして習慣づけていくことで、自然と法人の文化ができていく。井川先生のお声から教えて頂きました。

ひとりのいのちに みんなで寄り添う

これが白川園の理念です。施設を利用される方ひとりが大切にされる。というのではなく、施設利用者や職員、法人の理念を軸として、それぞれの役割を担い、共に活動していく。これは、法人の理念に基いて活動しているからこそ実現できる。

「あんなで」という言葉は、多岐用途で、それぞれの専門家が知恵を出し合っている状態にあるという意味。施設利用者一人にしないという意識が込められています。

最後に「よりそう」という言葉は、白川園での仕事の手を助けています。施設の考えを押し付けず、本人の思いを大切にしながら、必要に応じてサポートができるようにする。共に活動される方一人一人の思いを尊重し、共に活動したい。精神的な安心感を持っていただきたいと思います。

昭和46年3月、白川園が設立された時に創業者が抱いた思いを忘れずに、活動される方、共に活動される方、みんなが幸せになれるような法人でありたいと思います。



社団法人 白川園
代表取締役 吉澤 隆広

理念の説明からその法人の「つよい想い」が感じられます。

熊本市菊池郡にあります、白川保育園様にお話を伺いました。

ホームページを使って、介護・医療・障がい・保育の4部門11施設共通の理念を立ち上げました。その理念からの振り返りを各施設からのブログで毎日発信し、その発信を皆が読んで学ぶ文化を作っている。こうとスタートして一年。実際にどんな変化があったのかを園長の井川先生にお聞きしました。

もを見る目が育ってきていて、保育の表現力も上がってきているんですよ。」「ブログを読むと、日常の保育で大切にしているところが分かるんです。各施設でそれぞれに何を大切にしているのかも分かる。それがいいところですね。」「子どもたちの言葉やつぶやきをしつかりと先生たちがひろって、凄いなと感じています。」「お話をいただきました。それぞれが理念から振り返り、発信し、皆がそこから学

「理念が出来て、皆で理念に



一年を振り返るとき、施設の壁を越えて一つの理念を目指す。それはとても豊かなことだと感じます。

いくら取り組んでも積み重ねられない徒労感ではなく、積み重ねる豊かさや、誰かの学びが誰かの勇気になる豊かさを味わうには、理念を可視化してゆく土台づくりと理念から振り返る文化づくりが重要なのだと、改めて感じるお話でした。

アプリの活用

たそうです。

島根県江津市にあります、あさりこども園・さくらこども園様のホームページに、料理レシピアプリで人気のcookpadのバナーが掲載されていました。バナーをクリックすると「あさくら亭のキッチン」と表示がされ、両園で作った給食やおやつレシピが掲載されていました。

保護者の方から、「どうやって作るのですか？」とレシピを聞かれることがあり、これまで、紙に書いたレシピをお渡ししていたものを2015年頃からアプリを使いはじめ

cookpadへの投稿は給食の先生が行っているそう。調理工程や調理ポイントを写真にすることで、普段保護者の方が目に出来ない給食づくりの工程が可視化され、食の観点からも保育を発信されていると感じました。

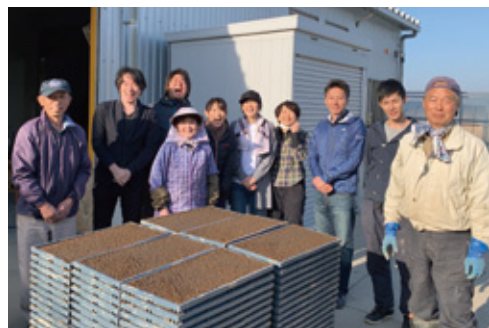
普段から利用するアプリを活用することで、気軽に見れて、一般の方にもメニューを紹介でき、好循環が生まれているこの取り組み。アプリの活用が園同士の給食の紹介にも発展していくような取り組みだと感じました。



「あさり」と「さくら」で「あさくら亭」♪

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

とびっきりの種蒔き

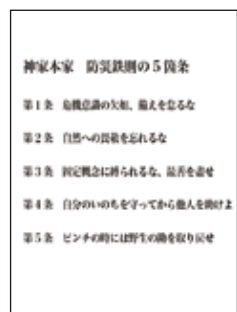


今年も稲作スタート！よろしくお願いします！！

田んぼを貸してくださっている藤崎農場さんからお誘いで、今年は種蒔きに挑戦することになりました。種蒔き作業のほとんどは機械が行いますが、機械にプラスチックの苗箱をセットしたり、土を補充したり、種籾が蒔かれた苗箱を積み上げる力仕事は人の手で行います。この重労働をたった3人で毎年こなしているというのですから頭が下がります。藤崎農場さんでは田植え後、殺虫剤などの薬品を一切使いません。そ

大切なことを忘れない

カグヤでは毎年3月11日を『大切なことを忘れないDAY』として、大震災から学び、行動に変えていくために日頃から何ができるか、どう生きるかなどを考え直す機会としています。自然や天災には逆らえないということを感じた日だからこそ、生き残るための防災とはどのようなものかを子どもたちと一緒に考えていくべきだと感じているからです。命を守る教えの一つに「津波でんでんこ」がありますが、親子でんでんばらばらになってもかまわず逃げ



【防災鉄則の5箇条】
カグヤで防災を考える際の心構え。子どもたちにも分かりやすい言葉で伝えていけるように、大人も理解を深める必要があると感じます。



苗箱に土を敷き、種籾を蒔いて土を覆せて水をかけたら出来上がり！



日々、見守られ成長中の苗たち♪ 田植えまでは気が抜けません。

のため害虫や病気に負けない丈夫な稲にするため、ビニールハウスで成苗まで育てます。「種蒔きをする今年も始まったと感じる。ここからは田植えまで休みなしだ。」と藤崎さんが仰るように、苗を育てるのは繊細な作業です。ハウス内が暖かすぎて早く育っても細く弱い苗になってしまいますし、寒くて成長が滞っても田植えに間に合いません。長年の経験から日々の気温や状態で、水やりの時間や量を変え、壁のビニールを巻き上げ風を通したりするそうです。片時も心を離さず、環境を整えることに最善を尽くし、相手の力を引き出す。本当の意味での「見守り」がそこにはある気がしました。

一期一会庵

むかしの田んぼ ～祈年祭～

先月、千葉県の神崎にある「むかしの田んぼ」で無事に祈年祭を行うことができました。「むかしの田んぼ」の中に祭壇を設け、供物をお祀りして宮司様に祝詞を奏上していただきました。美しい空と田んぼ、澄んだ空気、そして春風に純白の和紙がたなびく様子を、これからはじまる稲との四季の暮らしを想い、荘厳で清浄な心持になりました。

お祀りが終了し、宮司様と一緒にみんなでお神酒をいただきましたがその際に「おめでとうございます」という声を合わせました。通常ならばまだ何も収穫をしたわけでもなく、結果が出たわけでもないのになぜ「おめでとうございます」なのかと思うかもしれません。しかしこれは古代から連綿と続いている日本人の精神文化を象徴するもののなのです。

「前祝」という考え方があります。これはあることが善い結果になるように確信して祈り、結果が出る前に先に祝ってしまうという考え方のことです。よく前祝として、祝宴を開

いたり、桜の花の下で宴会をして新しい年度の未来を祝うものもその一つです。これを別の言い方では「予祝」とも言いますが、予めそうなると思っていて先に祝ってしまうというのは、どのようなことがあったとしてもそれは丸ごと「福」であると思える気持ちがあるということです。

この「福を待つ」という生き方は、どんなことがあっても希望を失わず与えられたすべてのご縁を神様からの恩恵としてみんなで受け取り、味わっていかうとする素直で謙虚な生き様です。

宇宙自然の道理として、福は追いかけるものではないということ。すでに福は身近に訪れており、それを信じて待つことこそが福を知り、福になるという真理をいうのでしょうか。私たちの祖先様たちが、かつてどのような環境下や状況下であっても希望を見失わず福を待ち、夢を実現してきたから子孫である今の私たちが無事に生き残っています。その中で特に重んじてきたものこそ、祈り「福」で居続けることだったのでしよう。子どもたちにも、そのような先人たちの智慧や遺徳、また伝承されてきた前祝の意味や価値を「むかしの田んぼ」を通して継承していきたいと思っています。

編集後記



「令和」がどんな時代になるのか…今から楽しみです♪

いよいよ「平成」も残すところあとわずか。新たな年号も発表され、日本中がなんだかおめでたい雰囲気包まれていますね。年号発表前には「明安、和平、恭成、満福」などクルー皆で色々予想してましたがどれもハズレ。「令和」と発表された時は、やや違和感もおぼえましたが、昭和生まれの私にとって、いつの間に

やら「平成」が馴染んでいたのと同じように、きつとしくりくる日が来るのでしょうか。社内では「令和に変わる時に何がしたい？」なんて話にもなり、「ジャンプする」「植樹する」「平成のお札をためておく」などの声がありました。せっかくの貴重な機会ですから、色々楽しんでみたいですね♪
(宮前奈々子)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます